

2025/1/24 於ホテル白鳥  
令和6年度地域包括ケアシステム関係基幹連絡会議  
「地域の医療と介護を考えるトップセミナー」

# 大田在宅医療情報連携ネットワーク (みかめの輪)の取り組み

大田在宅医療情報連携ネットワーク (みかめの輪) 事務局  
大田シルバークリニック 院長 岡田 和悟



# 大田市の特徴と在宅医療

- 大田市は、島根県の中央部に位置し、北は日本海に面し、南は中国山脈に接する、面積435.3平方kmの地域。
- 2020年国勢調査では、  
総人口：32,846人、  
男性：15,742人、女性17,104人  
高齢化率（65歳以上）：40.4%
- 2024年7月1日住民基本台帳登録者数  
総人口：31,769人、  
男性：15,293人、女性16,476人
- 県西部の各市部と同様に人口密度が低い。

## 島根県 | 人口密度が高い街ランキング

👑 1位	松江市 (島根県)	355 人/km <sup>2</sup>
👑 2位	出雲市 (島根県)	276 人/km <sup>2</sup>
👑 3位	安来市 (島根県)	88 人/km <sup>2</sup>
4位	江津市 (島根県)	85 人/km <sup>2</sup>
5位	浜田市 (島根県)	79 人/km <sup>2</sup>
6位	大田市 (島根県)	75 人/km <sup>2</sup>
7位	隠岐郡海士町 (島根県)	67 人/km <sup>2</sup>
8位	雲南市 (島根県)	65 人/km <sup>2</sup>
9位	益田市 (島根県)	61 人/km <sup>2</sup>

2023年1月1日現在帝国書院HPより

# 11月某日の訪問ルート



往診・訪問診療は  
16kmルールあり  
(一部例外規定あり)

# 在宅医療の対象者と必要条件

## <対象者>

- 入院して急性期治療を終えた方、ご高齢・通院困難症例
- 終末期（悪性腫瘍・慢性呼吸循環不全・認知症など）
- 病院嫌い（通院・入院は嫌、在宅で過ごしたい）

## <必要条件・場所>

- 必要条件：介護する家族・縁者・社会資源があること
- 在宅医療の場所：自宅、サービス付き高齢者住宅、グループホームなど
- イメージ（私見）：地域に広がる療養病棟

# 活動の背景

- 10年以上前より、大田市内の3診療所が協力して、在宅支援診療所（連携型）を形成していた。
- 従来の訪問看護ステーションとの連絡は、月1回の文書通知と急ぎの場合の電話・FAX・写真などの手段で、迅速性に欠ける部分が見られた。
- 昨年12月より始まったマイナンバー保険証を始め、最近の医療デジタルトランスフォーメーション(DX)は著しく、特に令和6年度の診療報酬改定を機に、大きな変革期を迎えようとしている。
- 情報共有ツールとして、従来より島根県内の医療情報ネットワークとして普及している「まめネット」をうまく使えないだろうか？

圏域別まめネット普及率  
(2024年10月末現在)

地域	割合(%)
松江	4.24
雲南	17.62
出雲	17.35
●大田	22.02
浜田	11.49
益田	9.54
隠岐	18.16
計	11.78

12月6日山陰中央新報より

## みかめの輪について

在宅医療の充実と情報共有を目的として、2024年5月より大田市内の4診療所と4訪問看護ステーションが、しまね医療情報システム（まめネット）を利用した在宅医療情報連携ネットワークを作り、その通称を「**みかめの輪**」としました。

在宅医療情報利用件数 17件  
(2024年12月末現在)

# 在宅医療アンケートの目的・対象・方法

目的：大田市における在宅医療の現状と在宅医療の場での情報通信技術（ICT）の利用状況を調査し、今後の在宅医療の課題と解決方法を探る目的でアンケート調査を実施した。

対象：大田市内の内科系診療所及び巡回診療実施20医療機関

方法：アンケート送付による2024年7月現在の訪問診療の実績調査（無記名）。

アンケート期間：2024年8月19日～8月31日

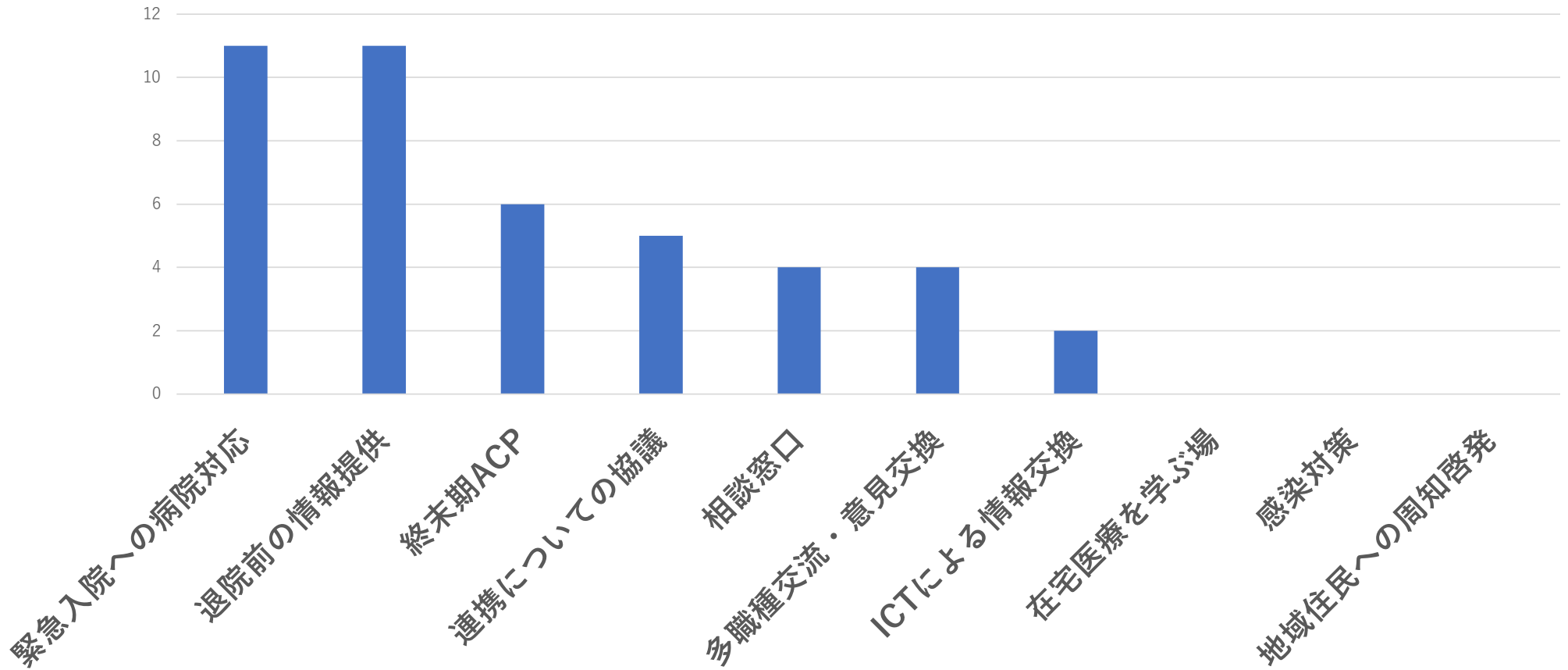
結果：アンケート回収 17/20医療機関（回収率 85.0%）  
（但し、巡回診療3医療機関は3ヶ所の総数）





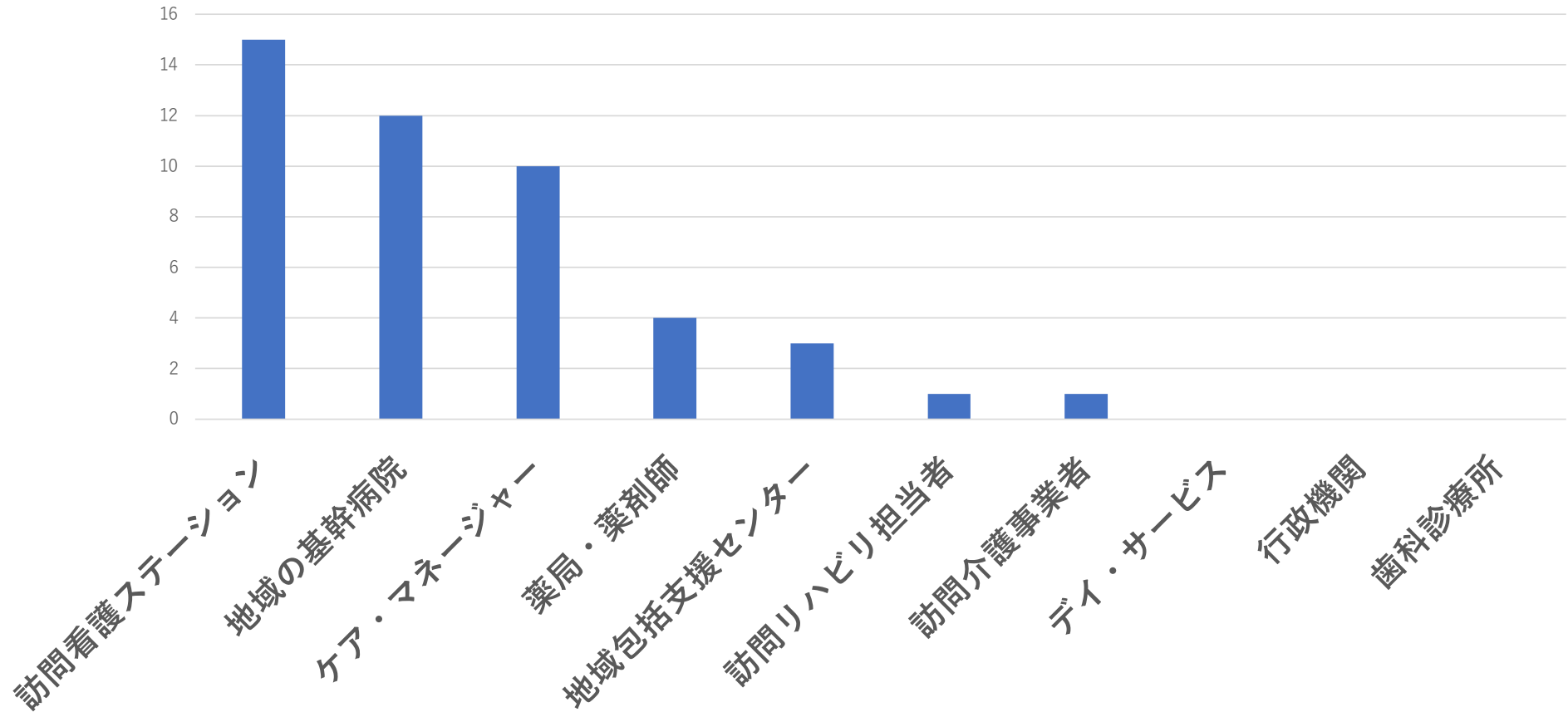
# 円滑な病診連携に必要な項目3つ

円滑な病診連携



# 多職種間の連携先で重要なものの3つ

多職種連携先



# 使用機器、マイナ保険証対応・利用率

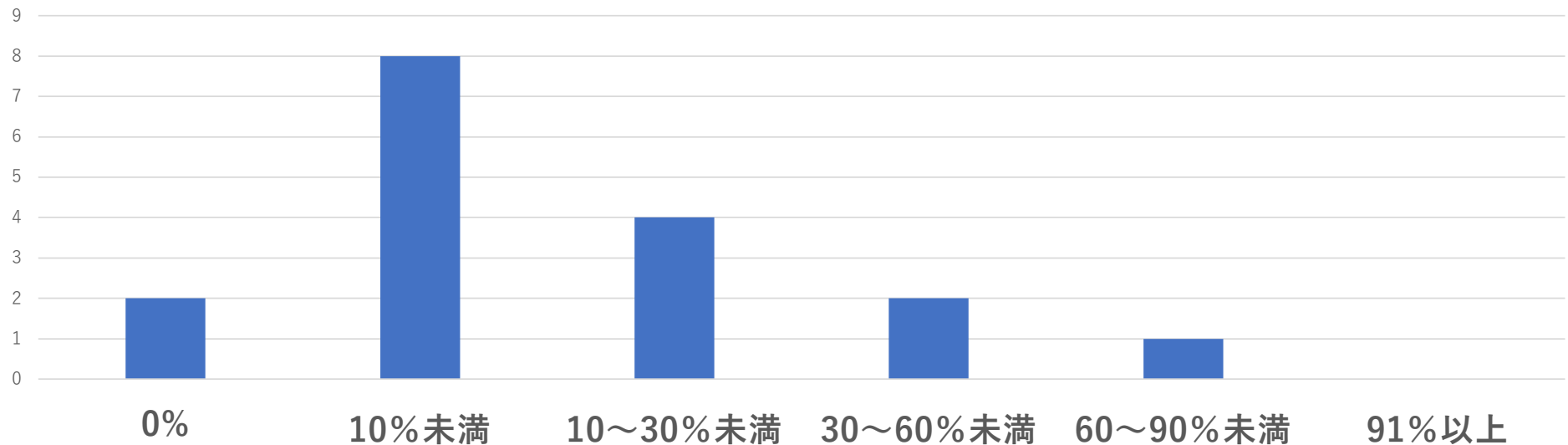
1 電子カルテの使用

使用している (15) 使用していない (2)

2 受付でマイナ保険証の対応

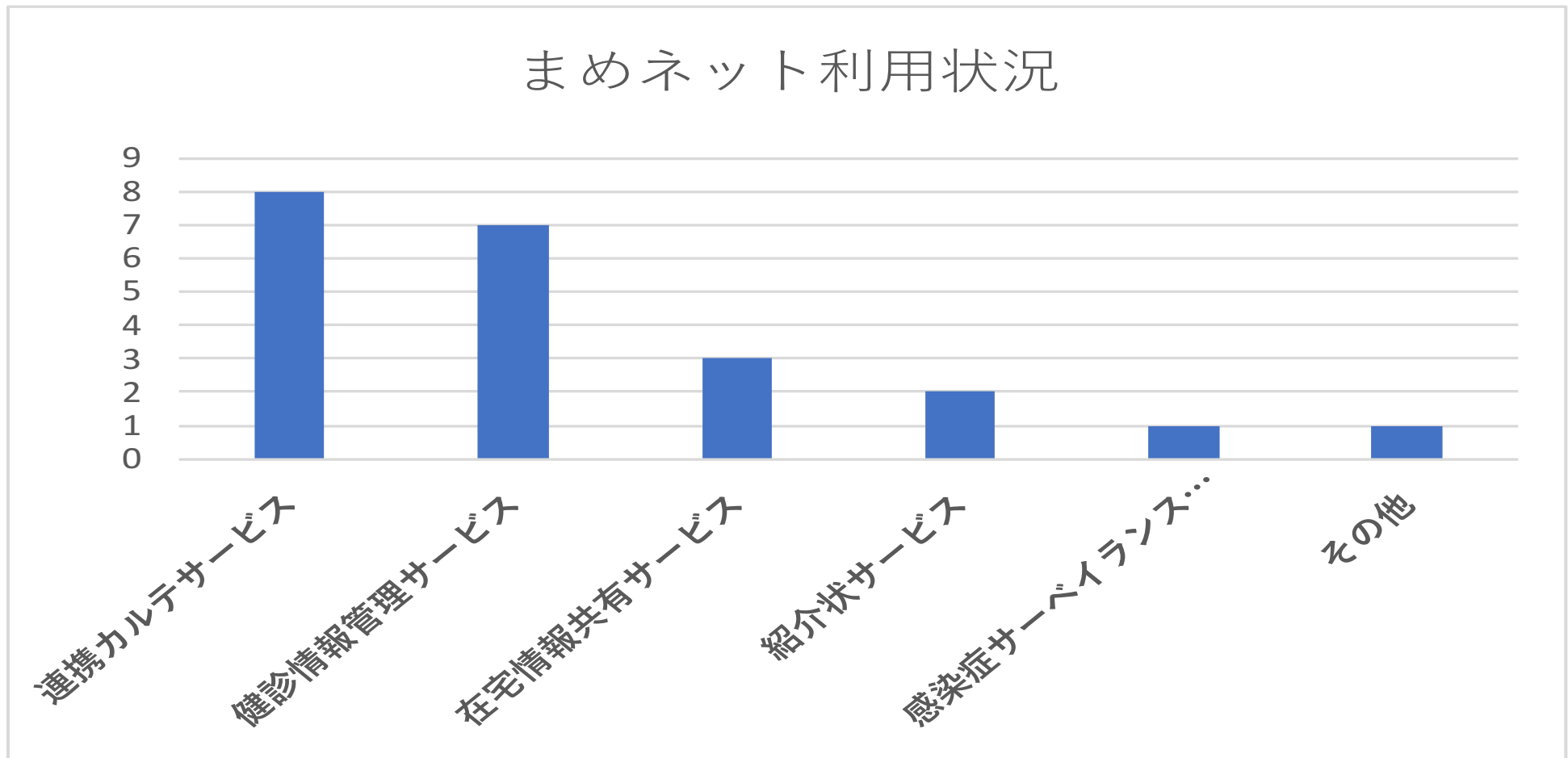
対応している (15) 対応していない (2)

## 7月時点マイナ保険証利用率



# 島根医療情報システム（まめネット）利用状況と項目

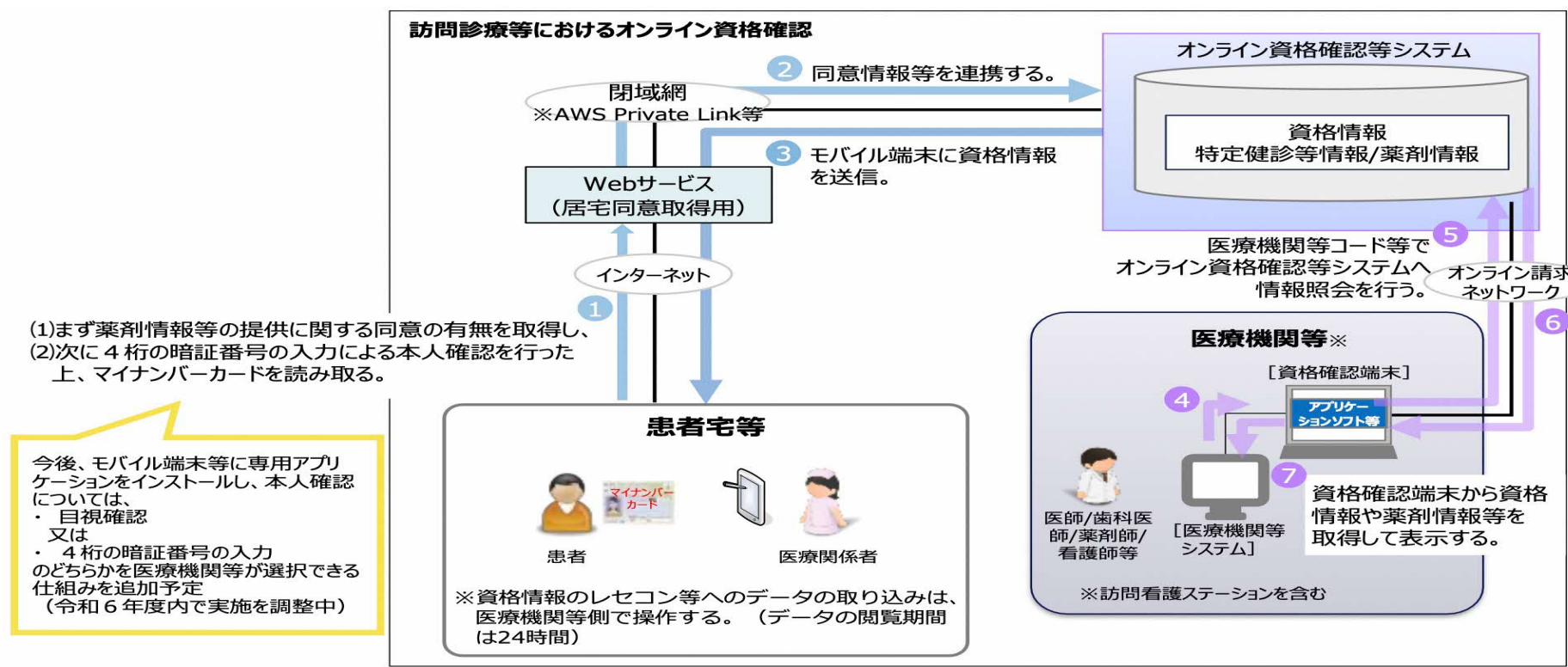
島根医療情報システム（まめネット）利用している（17） 利用していない（2）



# 在宅オンライン資格確認

在宅オンライン資格確認 実施している (1) 検討中 (8) 未知の状態 (8)

## ・在宅オンライン資格確認とは？



# 目的・対象・方法

目的：大田市における在宅医療の現状と在宅医療の場での情報通信技術（ICT）の利用状況を調査し、今後の在宅医療の課題と解決方法を探る目的でアンケート調査を実施。

対象：大田市内で訪問看護実施 7施設

方法：アンケート送付による2024年7月現在の訪問看護の実績調査（無記名）。

アンケート期間：2024年8月19日～8月31日

結果：アンケート回収 6/7施設（85.7%）

（但し、1施設は2024年8月末で廃止）

## 訪問看護実施総数と利用者状況（2024年7月）

訪問看護	利用者数	（404）人	総訪問回数	（2187）回
	上記のうち在宅患者数	（391）人	延べ訪問回数	（2097）回
	上記のうち施設患者数	（13）人	延べ訪問回数	（90）回

過去1年間の在宅看取り      なし（2）      あり（4）      総数（28）件

# まめネット情報共有サービスを利用した 訪問看護ステーションからの感想

- タブレットがないので写真が送れない。情報をその場で入力できないのが課題。
- 病院側から情報をいただくことは少ないため、訪問診療時のバイタルサインや情報を在宅共有サービスで共有することができて良い。
- 主治医の意見・診療方針等が直接伝わるため、看護に活かすことができる。有効活用すれば患者のメリットは大きいと思われる。
- ターミナル期の利用者様の日々の様子を相手方の業務を中断させることなく情報提供できる。
- かかりつけ医から直接回答をうることができる。



# 大田在宅医療情報連携ネットワーク（みかめの輪）研修会

実施年月日：2024年10月24日 19：00～20：45

場所：あすてらす3F研修室

参加者数：総数65名（医療・福祉・介護・行政関係者他）

○座長：大田呼吸循環クリニック 院長 中島秀嗣 先生

報告1「大田市における在宅医療アンケート報告」

演者：大田シルバークリニック 院長 岡田和悟 先生

報告2「訪問看護アンケート報告ならびに症例提示」

演者：訪問看護ステーション ラシック 河上 満 先生

○座長：うめがえ内科クリニック 院長 梅枝伸行 先生

**特別講演「在宅医療における情報通信技術（ICT）の利用」**

**講師：医療法人医純会すぎうら医院院長 杉浦弘明 先生**

（島根県在宅医療介護連携推進事業研究会 より講師派遣）



# 第17回石見銀山医学会

2024年12月5日開催

- 年2回開催する地元基幹病院である大田市立病院と大田市医師会との合同医学会
- 研修医、開業医、薬剤師・看護師・リハビリ職など多職種連携を目的に開催
- ハイブリッド開催で、20～30名程度の参加者あり
- 病診連携のあり方を含めて、発表・討議を行う大田市でのローカルコミュニケーションの場
- 在宅医療におけるアンケート調査を通じた病診連携の大切さをアピール

**第17回 石見銀山医学会**

座長 大田市立病院 医療局 総合診療科 医師 村上 航太郎 先生

演題

1. 講演 『当院を受診する市民のACPに対する認識調査の結果からみえてきたもの』  
大田市立病院 がん化学療法看護認定看護師 主任看護師 増本 和子 先生

2. 症例報告 『救急外来で初療を行った けいれん重積の一例』  
大田市立病院 初期臨床研修医 先生

3. 講演 『大田市の在宅医療と今後の医療DXへの対応 ～まめ社在宅情報共有サービスを用いた試み～』  
大田在宅医療情報連携ネットワーク（みかめの輪）事務局 大田バークリニック 院長 岡田 和悟 先生

日時 令和6年12月5日（木） 19:00～20:30

会場 大田市立病院 3F会議室

インターネット配信も同時に行います。  
聴講を希望される方は右下のQRコードから入室して下さい。  
ご参加の際には所属先と名前の表示にご協力下さい。webex  
ミーティング番号：2558 229 7220  
パスワード：iwamiginzan17

【主催】大田市立病院 大田総合医療センター  
【共催】大田市医師会  
島根大学医学部総合医療学講座  
島根県薬剤師研修協議会・島根県病院薬剤師会

《お問い合わせ先》大田市立病院 事務局 総務課 担当：大草 TEL：0854-82-0330（代）  
《日病薬病院長学認定薬剤師制度 単位希望者 事前申込先》lupin3852@gmail.com（担当：堀江）  
上記アドレスより「所属、氏名、薬剤師登録番号」をご入力の上お申し込みください。 申込締切：12/2（月）  
申込内容に不備がある場合は単位認定できません。

※日本医師会生涯教育制度認定単位：1.5単位（オンライン受講の場合も単位取得可）  
カリキュラムコード 4：医師-業務関係とコミュニケーション 35：けいれん発作 80：在宅医療  
※日病薬病院長学認定薬剤師制度単位 申請中  
事前お申し込み必須 単位認定は現地聴講者のみ（複数回提示するキーワードにご回答ください）

# 医療界（主に診療所）におけるDXの促進

- オンライン資格確認、マイナ保険証普及・促進（2024年12月～）
  - 電子処方箋（2025年4月）
  - 電子カルテ情報共有サービス（2025年10月）
  - 標準型電子カルテシステム
- 
- 訪問診療におけるオンライン資格確認
  - 訪問看護ステーション オンライン請求義務化（2024年10月）
  - 訪問看護ステーション オンライン資格確認義務化（2024年12月～）



# 2024年度診療報酬改定

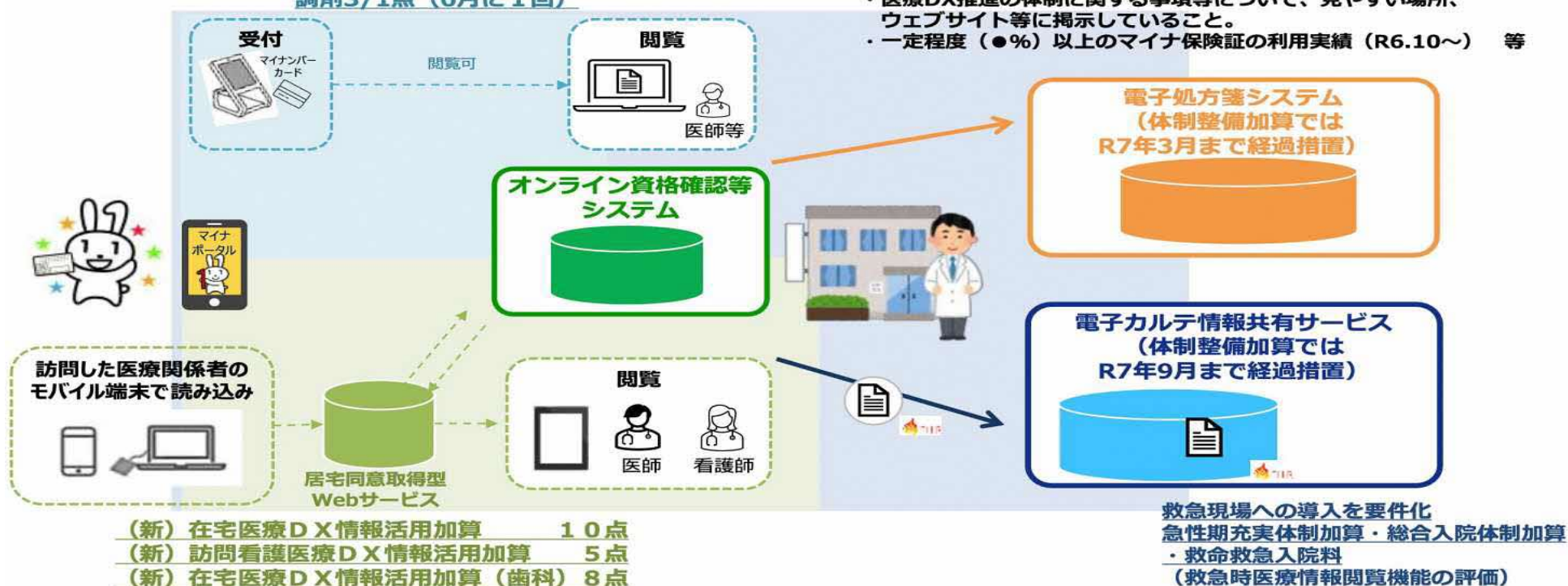
## 令和6年度診療報酬改定における医療DXに係る全体像

- 医療DX推進体制整備加算により、マイナ保険証利用により得られる薬剤情報等を診察室等でも活用できる体制を整備するとともに、電子処方箋及び電子カルテ情報共有サービスの整備、マイナ保険証の利用率を要件とし、医療DXを推進する体制を評価する。（電子処方箋等は経過措置あり）

(新) 医療情報取得加算 初診3/1点 再診2/1点 (3月に1回)  
調剤3/1点 (6月に1回)

(新) 医療DX推進体制整備加算 8点、6点(歯科)、4点(調剤)

- 医療DX推進の体制に関する事項等について、見やすい場所、ウェブサイト等に掲示していること。
- 一定程度(●%)以上のマイナ保険証の利用実績(R6.10~)等



※答申書附帯意見 令和6年12月2日から現行の健康保険証の発行が終了することを踏まえ、令和6年度早期より、医療情報取得加算による適切な情報に基づく診療の在り方について見直しの検討を行うとともに、医療DX推進体制整備加算について、今後のマイナンバーカードの利用実態及びその活用状況を把握し、適切な要件設定に向けた検討を行うこと。

# まとめ

- ✓大田市における在宅医療の現状と在宅での情報通信技術（ICT）の利用状況を調査し、今後の在宅医療の課題と解決方法を探る目的でアンケート調査を実施した。
- ✓対象20医療機関にアンケートを配布し、回収率は85%であった。
- ✓対象患者数は、634人（在宅277人、施設357人、訪問総数1309回）であった。1年間に往診が117人（155回）実施され、看取り実績は155件であった。
- ✓病診連携には、緊急入院への病院対応・退院前の情報提供・終末期ACPが必要が高かった。
- ✓多職種連携には、連携についての協議・交流や意見交換・相談窓口が必要が高かった。
- ✓今後の在宅医療DXへの対応として、まめネットの在宅情報共有のさらなる活用が望まれる。